

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(生)甲第254号	氏名	Arti Tomer
学位審査委員	主査 武藤鉄司 副査 中村武弘 副査 武政剛弘 副査 河本和明 副査 伊藤慎		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>Arti Tomer氏は、2008年4月に長崎大学大学院生産科学研究科博士後期課程環境科学専攻に入学し、現在に至る。入学後、所定の単位を修得する一方で、河川デルタ系の海水準応答に関する理論的・実験的研究を遂行し、その成果をまとめた主論文「Response of Fluviodeltaic Depositional Systems to Steady Rise of Sea Level: Geometrical Modeling and Flume-Tank Experiments」を2010年12月に提出した。また、参考論文として、学位論文の内容にあたる印刷公表論文2編(うち審査付き論文2編)、学位論文の基礎となる論文1編(うち審査付き論文1編)、その他の論文4編(いずれも学会講演要旨で審査なし)を付して、博士(学術)の学位を申請した。長崎大学大学院生産科学研究科教授会は、2010年12月15日の定例教授会において論文内容等を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の学位審査委員を選定した。学位審査委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議するとともに、2011年1月17日に公開論文発表会と最終試験を行い、論文審査および最終試験の結果を2011年2月16日開催の生産科学研究科教授会に報告することとした。</p> <p>提出された論文の審査内容は次のとおりである。定常的海水準上昇のもとで、河川デルタ堆積系は海岸線自動後退過程(オートリトリート)を経た後にデルタ形態の喪失とエスチュアリ化(オートブレイク)を経験することが知られている。ある種の地形条件のもとではこの経路を辿らない自動後退過程が存在することも以前から指摘されてはいたが、その理解は十分ではなかった。本論文は、そのような自動後退過程(オートリトリート-オートドロウニング経路)の全容と定常的海水準上昇に対する河川デルタ堆積系の層序学的応答を幾何モデリングと水路-水槽実験の手法により初めて解明したものである。とくに、定常的海水準上昇のもとで成長する河川デルタ堆積系の地層中にオートジェニックな時間間隙不連続面(ハイエイタス)が必然的に生じることを発見した点はこれまでの地質学的常識を覆す重要な成果として評価できる。また本論文ではこれらの新知見が天然の河川デルタ堆積系へも十分に適用可能であることを示した。研究成果の一部は堆積地質学の分野で権威のある国際学会誌に掲載が決定している。</p> <p>以上のように本論文は、河川デルタ系の海水準応答の理解に関して多大の寄与をするものと評価できる。</p> <p>学位審査委員会は、本論文が堆積地質学および環境動態解析学の分野において極めて有益な成果を含んでいることを評価し、堆積系地質学の発展に貢献するところが大であると認める。よって、博士(学術)の学位に十分値するものとして、合格と判定した。</p>			